

(別 紙)

平成22年度動物愛護管理功労者大臣表彰の受賞者

個人7名

団体なし

○ 個人

受賞者	いしい ふみこ 石井 文子（74歳） 群馬県高崎市 （現（財）日本動物愛護協会群馬支部長）
主要功績	<ul style="list-style-type: none">○ 日本動物愛護協会初となる支部である群馬支部長として、譲渡会を行うための施設を開設し、飼い主・保護者に対して、毎週の土日に譲渡の場を設け、希望者への譲渡活動に取り組んでいる。群馬県より犬猫譲渡等推進事業を受託し、8年間で約6千頭の犬猫を救済するとともに、譲渡希望者に対し約千回に及ぶレクチャーを行い、適正飼養・終生飼養啓発活動に尽力している。○ 日頃の犬猫の譲渡活動の経験談に基づいた動物の愛護及び管理に関する講演活動に精力的に取り組み、命の尊さについて触れつつ、動物愛護思想の普及に尽力している。

受賞者	かとう げん 加藤 元（78歳） 東京都杉並区 （現（公社）日本動物病院福祉協会顧問）
主要功績	<ul style="list-style-type: none">○ 日本動物病院協会を設立し、世界で最も進歩していたアメリカの獣医学及び獣医療を国内でも学び実践するため、獣医学各科専門医を招聘し、家庭動物医療を飛躍的に進歩させた。また、ヒューマン・アニマル・ボンド（人と動物の絆）の理念の普及・啓発に尽力している。○ 高齢者施設等に家庭犬を伴って訪問する活動（動物介在活動）を日本に紹介したことを契機に、動物愛護と福祉に配慮した活動に尽力した結果、現在では用語として「アニマルセラピー」が一般的となり、全国的に活動が展開されている。更に、動物行動学を基本とする科学的根拠に基づいた、強制力を用いずほめることによって良い行動を認識させるしつけの方法を全国的に普及させた功績は極めて大である。

受賞者	けいとく ひろふみ 経徳 禮文（72歳） 千葉県柏市 （現 （公社）日本愛玩動物協会相談役）
主要功績	<ul style="list-style-type: none"> ○ （社）ジャパンケネルクラブ理事長及び本協会常任理事並びに副会長として、長きにわたり当協会並びにペット業界の健全な発展と育成に貢献し、また、関係行政機関と連携を図りつつ、家庭動物の愛護精神の高揚と適正飼養の普及啓発に尽力した。 ○ 動物の愛護と適正な飼養及び管理について普及啓発するための指導者の養成として、「愛玩動物飼養管理士」約10.2万名を輩出した功績は極めて大である。

受賞者	すぎたに あつし 杉谷 篤志（65歳） 福岡県福岡市 （現 （社）福岡県獣医師会副会長）
主要功績	<ul style="list-style-type: none"> ○ （社）福岡県獣医師会の組織改革に取り組み、産業動物部会、公衆衛生部会、小動物部会の3部会体制の確立に貢献した。 ○ 天然記念物のヤマネコ保護に関する功績は顕著であり、九州各県の獣医師会に呼びかけて九獣連ヤマネコ保護協議会を立ち上げて、絶滅が危惧されているツシマヤマネコとイリオモテヤマネコをイエネコの伝染病から守るため、対馬と西表島に動物診療所を整備し、5種混合ワクチン接種を推進する事業に尽力した。

受賞者	みぞぐち としお 溝口 俊夫（63歳） 福島県安達郡大玉村 （現 福島県鳥獣保護センター参与）
主要功績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野生動物専門獣医師の草分け的存在だが、その活動範囲は傷病野生動物の治療にとどまらず、市民参加の環境教育、人と野生動物の共生計画など多岐にわたる活動に尽力している。 ○ 小中学生や市民の為の環境教育、人と動物との共生を目指すエコロード設計、生物多様性地域戦略の策定など、幅広い活動を展開している。自治体や獣医師会と連携したネットワーク構築、市民ボランティアとの協働による救護活動、積極的な講演活動や自然観察を基にした子供達への教育活動等の分野で、多大の貢献を果たしている。

受賞者	やまぐち たけお 山口 武雄（62歳） 神奈川県大和市 （現 山口獣医科病院院長）
主要功績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 犬猫の殺処分減少のため、無料またはボランティア価格にて犬猫の不妊手術を行っている（年間手術数約6千頭）。経営する病院を里親探し会場として無償提供し、シェルターの病院内への設置、日本初となる移動式病院による不妊手術活動を全国で行っている。 ○ 雲仙普賢岳噴火の際に1ヶ月間、阪神・淡路大震災の際に4ヶ月間現地に滞在し被災動物の治療と不妊手術を行った。更に、ブータン国より招聘され、現地で主に不妊手術の指導を行った結果、術後死亡率が90%から10%に大幅に改善した。また、スマトラ沖地震による津波の際、現地に1ヶ月間滞在し、被災動物の疾病・怪我の治療と不妊手術を行った。 ○ 実験動物繁殖業者倒産に伴う440頭の犬猫置き去り（富山県）の際、全頭の不妊手術と疾病治療を、また200頭の多頭飼育崩壊現場（山梨県）において全頭の不妊手術を行った。更に、御蔵島（東京都）において、オオミズナギドリ保護のため、野生化した猫約120頭の不妊手術を行った。

受賞者	やまね あきら 山根 晃（67歳） 神奈川県横浜市 （現 （財）千葉県獣医師会副会長）
主要功績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若くして千葉県獣医師会の役員に就任し、負傷動物救護事業、千葉県野生動物救護対策事業及び傷病野生鳥獣救護事業などの立ち上げから運用まで積極的に取り組み、動物愛護の普及啓発に尽力した。 ○ 獣医師会副会長に就任後、社会福祉及び動物福祉の観点から獣医師会の事業として、福祉介護犬の活躍を支えるため、健康管理及び保持を目的とした福祉介護犬医療助成制度を創設した。現在も千葉県動物愛護管理推進協議会副会長、千葉市が行う動物愛護フェスティバルの推進会議副会長として動物愛護活動に尽力している。

注) 受賞者の年齢は、平成22年9月21日現在。

○ 団体 該当なし